

<全体分析>

試験時間

80 分

解答形式

長文総合問題3題, 2つの設問からなる自由英作文1題

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

長文総合問題3題と自由英作文1題, 長文総合問題は大問ⅠとⅡが論説文で, 大問Ⅲが小説文という出題形式は例年通りである。総ワード数も, ここ数年は1,800語前後で安定している。

出題の特徴や昨年との変更点

昨年と比べて大きな変化はない。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合 (695words)	「ソーシャルメディアの弊害」	問2の doomscrolling の指示内容について, どこまで踏み込んで書くかの判断が求められるが, 第2パラグラフの第2文の内容を簡潔にまとめればよい。 出典 Monica Vilhauer: <i>What Exactly Is Doomscrolling and How Does It Affect Us? New research confirms a variety of adverse impacts on mental-emotional health.</i> (September 7, 2024)	標準
II	読解総合 (501words)	「生物の遺伝的多様性について」	問1は第3パラグラフの第1文の後半をまとめれば十分であるが, 第3パラグラフの最終文の内容を入れ込んでも良いだろう。 問3の this の内容は前文の that 以下の内容を説明すればよい。suggesting 以下の内容も入れることもできる。なお, ecological disruption は「生態学的攪乱」という訳語が定着しているが, 受験生がそれを知っていることが前提とされているとは思えない。訳語は幅広く許容されるだろう。 出典 Donna Lu: <i>Study of more than 600 animal and plant species finds genetic diversity has declined globally</i> (January 29, 2025)	標準
III	読解総合 (595words)	「青年が交際相手の父親に会いに行く場面」	出典は1970年に出版されたベストセラー小説『ある愛の詩』。難問である。また, 例年出題されていたセリフ内の穴埋め問題が今年度は出題されなかった。 出典 Erich Segal: <i>Love Story</i> (February 14, 1970) 邦題『ある愛の詩』	やや難
IV	英作文	「電力供給の方法の国ごとの違い」	2つの設問の形式は, 昨年ときわめてほぼ同じ形式。	標準

注: 区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題形式は例年通りで、600語前後の英語長文が3題、そして2問構成の自由英作文が1題という形式の出題。下線部和訳、内容説明、空所補充、内容合致、同意語句選択、自由英作文など出題形式はきわめて多彩であり、こうした形式に対処する能力を養うためには、一步一步地道な学習を続ける以外に近道はない。文法や構文を習得する、単語や熟語を覚える、問題演習を繰り返す、復習を欠かさないなど、「オーソドックスな学習」を継続することが神大合格につながるはずである。

長文総合問題では、パラグラフのメッセージを大きくつかみながら、長文をスピーディーに読み解いていく能力と、一文一文丁寧に構文をたどりながら精読していく能力とが共に必要である。単語や文法・構文をこつこつと学んでいく地道な努力と、長文総合問題を限られた時間内で解いていく実践的な練習とを並行して進めていこう。下線部和訳や内容説明などの記述力を要求される設問の比重が大きく、ここでの出来が合否に大きく影響するはずである。日頃の学習においても「頭の中で解答する」だけでなく、きちんとノートに書くことを心がけよう。下線部和訳は、かつてのような複雑な構文や難解な単語を含む英文の訳出ではなく、前後の文脈と論理の流れを踏まえた上での訳出が必要な英文の訳出へと傾向は変わりつつあることにも留意しておきたい。

また、神戸大学の出題はここ数年、現代英語化の傾向が著しい。今年も大問Ⅰは2024年、大問Ⅱは2025年に公にされた記事からの出題となっている。

さらに、ここ数年の神戸大学の出題傾向の変化についても意識しておく必要がある。記述式の内容説明問題や選択肢から選ぶ内容合致問題は、これまでの大学入試問題の典型的な形とは変わりつつあるようだ。また、内容説明の記述問題は、英文の中から該当箇所を見つけ出しそれを記述するというよりも、前後の繋がりを把握した上で、ある程度は自分の言葉でざっくりとまとめることが求められているようである。つまりこれまで以上に英文の流れを把握する能力が問われているのだ。

英作文は自由英作文の出題が続いている。自由英作文はどのような内容を書くかを考えすぎると、いたずらに時間を取られてしまう恐れがある。神戸大学が求めているのは「シンプルな英語でオーソドックスな議論を英語らしい展開で書くこと」だと思われる。普通の発想の平凡な内容で構わない。「文と文のつながり」、そして「パラグラフのまとめ」を意識して英文を組み立てていこう。言うまでもないことだが、不必要な改行はせず、一つのパラグラフで書くべきである。また、設問の意図を読み違えてしまうと、まったく得点が発生しないという事態になりかねないので慎重に設問を読み、見当違いの解答にならないように注意しよう。配点は全体の125点のうち25点で相対的にはそれほど高くはない。ここでいたずらに時間を浪費してはならない。時間配分を考慮して戦略的な解答作成を常日頃から心がけたい。